

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800014		
法人名	社会福祉法人 こもれび福祉会		
事業所名	グループホームこもれびの郷		
所在地	島根県益田市横田町710番地		
自己評価作成日	平成23年2月2日	評価結果市町村受理日	平成24年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.katgokouinyou.jp/katgostp/information/public.do?JGD=3290800014&SCD=320&PCD=32
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成24年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所後5年となり、入所者様の介護度が上がり、意思疎通の取れない状況の中、やもすると介護者本位の介護になる傾向が見え、職員に初心に戻ることを強く要望している。自然に寄り添うことの難しさ、個々の介助に手が掛かるようになり、職員間の連携の難しさに突き当たっている感がある。その中で職員の離職者がなく、入所者との馴染の関係はとでも深まってきていると思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自然によりそい、心からの笑顔を」の理念を開設以来掲示して職員と共有し支援に取り組んできたが、管理者はもう一度理念の初心に戻り、利用者の立場に立ったケアをするために具体的に行動目標を作り取り組んでいる。毎月行っている茶話会では常連者の来訪があり馴染みの関係もできてい。今年度はさらにより多くの地域の方々との交流を目的にさんさん祭りを企画し、認知症についての講演会とホームの庭ではバザーや屋台を出し、ゲームをするなど、新しい関係作りに取り組んできた。花見の季節には、庭でサポート隊の協力で三味線の演奏や余芸を楽しむなど、利用者が穏やかに過ごせるよう工夫しながら支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	パンフレットや施設玄関に掲げた理念。入所者との携わりを深めるにつれ理解できるのではと思っていたが、この理念に繋がる介護が一番難しいと感じている。	管理者は、もう一度原点に立ち返って理念を考え日々の実践に繋げたいとの思いから、職員アンケートや面談を行い、話し合う機会を持った。具体的に行動目標を五項目作り取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の茶話会、秋のさんさん祭りなど施設から地域交流を図っている。また、災害避難訓練にも参加・協力をいただけるようになってきている。	地域の運動会や事業所の行事などを通し積極的に交流している。毎月行う茶話会には常連者もでき、さんさん祭りでは、バザーや芋煮などの屋台が出て、幼稚園児も参加し地域との新しい交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての講演会や体験談、こもれび新聞の回覧で施設からの啓発活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の状況報告に対し、協力医や地域の方々から意見を頂きケアに取り入れ、実践に繋げている。	利用者の状況やヒヤリハットの報告、看取りや医療機関との連携などその時々々の議題で話し合い、アドバイスや意見を貰い運営に反映させている。委員以外の地域の方にも参加して貰い意見を聞くこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは随時相談をし、十分な連携をとっている。	運営推進会議でアドバイスや意見を貰ったり、日常的に相談事や連絡をするなど協力関係が築かれている。担当者には事業所、利用者のことをよく理解して貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険となる状況では、家族の同意を得て、ベッド柵や車椅子での拘束を行うことがある。	利用者ごとの連絡ノートを活用し、日々の記録をもとに安全の為の対策をとり見守り支援に努めている。重度化が進み危険が伴う場合は、家族と話し合い対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束のみならず、スピーチロック等にも十分気をつけた介護に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員については、主任クラス以上が研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は十分な時間をとり、家族に理解・納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者の家族会を2月に実施しており、今年度の事業報告を行い、次年度に対しての意見を聞き取り、家族の思いを反映した取組に努めている。	家族会や行事、毎月の支払い時など、機会ある毎に意見や要望を聞き事業計画に反映させている。家族会には1家族から子や孫などの参加があるところもある。遠方の家族は、近くの親戚が対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度意見や提案を聞き、そのことについて話し合い少しでも実行に繋げるよう努めている。	管理者は日常的に職員の意見を聞きその都度話し合いながら運営に反映させている。利用者の居室作りに職員の意見を取り入れ、誕生日にタペストリーをプレゼントして雰囲気作りに取り組んだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意欲を持ち、自分のスキル向上に努められるよう、就業環境の整備に努めている。(育児手当・資格手当・研修費補助など)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	5年目になると、介護員の力量にも大きく差が出てきている。レベルの統一化に努めると共に、職員自身のスキルアップの取組を望む。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	益田圏域グループホーム連絡会の施設長会議に出席、年2回(6月/10月)に交流会をし、ネットワーク作りや勉強会の場としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所者様との関係作りに努め、入所時の家族からの聞き取りを十分行い、本人の日頃の会話などから思いを汲み取り支援に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内での様子を家族とこまめに連絡を取り、家族の要望などにも真剣に応じていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に十分な時間を取っての家族や担当ケアマネから聞き取りを行い、当初のプランを立て1ヶ月の関りを経て目標設定をし、介護計画を立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護するだけでなく、できる事はお手伝いしていただきながらお互いに協力し、残存能力を生かすケアに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所者を中心にしての家族との連携を保つことに努め、受診時の同行をできる範囲でお願いし、皆で支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所者と出かけていくことができなくなってきているが、家族へは面会や外出などの協力をお願いしている。施設では重度化の中でも、時々自宅方面へドライブに出かける。	自宅近くへドライブに行ったり、家族と墓参りに行くなどできることを行っている。事業所の行事を通し、地域の人との新しい関係が作られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別ケアの域に達しており、入所者同士の関りは難しい状況にあるが、職員が皆様と同じ席で声掛けをし、話題を提供したり作業を行ったりすることで関りを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所者が他施設や病院へ移行された時は、移行先の相談員に状況提供し、家族が不安にならないよう密な連携をとり支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が難しい方が増えている中、目線を合わせ傾聴する姿勢をとる基本の難しさを実感している。性格や思いを汲み取り、声掛けも個別対応になっている。	だんだん難しくなっているが、生活暦から利用者を理解することに努め、声かけを工夫したり、相性の合う職員が対応し傾聴する事で利用者の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者すべての生活暦の把握は難しいことだが、面会時などの話題から知り得ることも参考にしてている。職員は情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者のその日のADLを把握し、個性を知りスタッフ間で共有することに努め、重要な心身の状態はメモを取り、申し送り時に伝えるようにする。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者のADLと家族様の意向を入れた上で、今の課題を検討し介護計画を作成する。毎月のケア会議で月単位のモニタリングをし、必要に応じて見直しをしている。	全職員で介護計画を作成している。利用者の長・短期目標や服薬などを書き込んだ一覧表を掲示し、全職員で共有しながら支援に取り組み、毎月のケア会議で見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方・表現の仕方にも技量の差が出てきているが、介護記録の重要な部分には赤線などを引くなどし、情報の共有化を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護度に差があり個別ケアとなっているが、2ユニットでの共有や、隣接のデイサービスとの連携など、柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設から出かけて行っの地域資源との協働はできなくなったが、地域の保育園や小学校の園児や児童との交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入所者・家族の希望を優先している。体調の変化などがあった時はその都度主治医と連携をとり、情報提供をしている。	医師と連携をとりながら健康管理や医療面での支援を行っている。月一回往診があり、受診は家族対応で行っているが、要望があれば職員が同行し内容を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接のデイサービスの看護師に日頃から協力を得ている。対応困難な事例は往診や受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には早期退院について病院側と話し合い、病院の相談員と常に連絡をとり家族に不安を与えないよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	5年目でもまだ経験が無く、これからの大きな課題である。協力医やかかりつけ医との更なる連携を深めたい。	入居時や必要時に家族と話し合っている。かかりつけ医からは看取りについてのアドバイスを貰っている。事業所としての方針を持っているが、今後さらに検討すべき課題と考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所時救命救急講習を受けているが、重度化に伴いこの先は年1回の講習は必須課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春と秋に近隣の住民の手助けをもらい、避難訓練を実施しているが、重度化に伴い年々不安な課題は多くなっている。	年二回、春は夜間を想定しての火災訓練、秋は日中での災害避難訓練を行っている。避難訓練や地域の指定避難場所への移動は地域住民の協力で実施している。	重度化に伴い、利用者の状況に合わせた対応ができるような訓練の実施を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者との意思疎通ができずらくなり、介護員本位の介護になる傾向にある。入所者一人一人の人格を尊重することを念頭に、言葉かけにも最善の注意をはらう。	入浴時にはバスタオルを使用したり、トイレの声かけの工夫、排泄時には汚物が他の利用者にはわからないよう新聞紙に包んで処理するなど、プライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者の思いを引き出し、答えやすい様な言葉かけの工夫に努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者との意思疎通が思うように取れない現状では、職員本位の介護やタイムスケジュールで流れてしまい、希望に沿った介護から逸脱してくる。日々入所者に目を向けた介護に努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを聞いての定期的なヘアカットをしている。清潔な装いに気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には好物で食べたい物を聞き出し、メニューに取り入れている。できる範囲で刻みや盛付けの手伝いをお願いしている。	利用者は、盛り付けや台拭き、おしぼりを干すなどできる事を行っている。職員も介助をしたり心配りをしながら一緒に食事を摂り、楽しい食事場面になるよう雰囲気作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食手作りの食事の提供に取り組んでいる。1日1500cal・1500ccを目標にしているが、開所当初と比較すると食べ込む力が落ちてきている。毎食の食事摂取量のチェックを忘れずにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後毎回歯磨き・うがい・義歯の洗浄をし、夜は洗浄剤を使用している。拒まれる方もおられ、2度・3度声をかけているが、十分出来ないこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表やスタッフ間で連絡をとりながら誘導している。ほとんど紙パンツ使用であるが、個々のリズムを汲み取り交換回数を減らすよう努めている。	チェック表を見たり職員同士が連携し、トイレでの排泄支援に努めている。昼、夜間でパットの使い分けを工夫し殆どの人が紙パンツを使用している。夜間は見守りと居室内の音に気を配りトイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方への対応として、「歩くこと」「水分を摂ること」などに注意を払い、食物繊維の豊富な物を摂るように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望する人は毎日の入浴に応じている。熱めの湯が好き人は早めの入浴など、好みに配慮している。無理強いはせず、タイミングを見て誘い清潔保持に心掛けている。	希望に沿った支援を行い毎日入浴することもできる。嫌がる利用者にはタイミングや声かけを工夫して支援している。入浴できるようになったことで清潔が保たれ家族から喜ばれた人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時は温かい飲み物を出したり、側に寄り添うなどして心を落ち着かせ、内服に頼らないようにしている。日中でも自室で自由に休まれる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	重度化に伴い自身での服薬が困難な方が増えているため、様々な工夫をこらし(お薬ゼリーの使用や水で溶くなど)服薬もれのないよう努めているが、強い拒否があり飲めない日もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの個性を知り、生活にメリハリをつけるよう工夫をしている。集団でのレクリエーションは難しくなっており、個別の支援となっているが、その中でも思いがけない能力を発見することもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	墓参りなどはご家族に協力を願う。出身地区へのドライブや季節毎好天の日の外出を実施している。年2回近くの食事所で外食を楽しんでいる。	外出希望は少なくなってきたが、自宅近くまでのドライブや天気の良い日には利用者を庭に誘ってお茶事や食事を楽しい時を過ごせるよう支援している。外食や遠足など出かける機会を作り遠足には家族も参加している。畑で野菜を作る利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身での金銭管理は難しい状態のため、全員家族管理となっている。必要なものや欲しい物などについては立替を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族様に宛てて、毎月23日(ふみの日)に写真入の葉書を作成し、ご本人に近況を書き添えていただいで送っている。電話は希望時にとりついでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い清潔保持を心掛けている。ホールに季節の花々を生けるなど、季節感への配慮もしたいが、異食される方もあり、生活空間のアレンジも難しくなっている。居室の名札の上に季節感を感じられる手作りの小物を飾ったり、空調管理にも配慮している。	清潔で木の温もりを感じる明るいホールで室温にも配慮している。ホールには職員が作った「こもれび神社」に利用者が書いた絵馬が飾られ利用者はお参りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入所者同士で隣り合わせに座っていただいたり、デッキに出たりたまりなどで過ごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた家具等の持込をお願いしたり、家族写真を飾ったりしている。誕生日にタペストリーをプレゼントするなどして、雰囲気作りに努めている。	使い慣れた家具を置き、雑誌、観葉植物、家族の写真などを飾っている。職員も利用者に合わせて作ったタペストリーをプレゼントして、居室の雰囲気作りに努めている。濡れタオルを置き湿度にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	異食行為のある方や転倒の危険性の高い方へ配慮した環境づくりに努めている。また、ご自身で排泄カレンダーをつけてもらい、自立度を高める支援をしている。		